

表を使って解く問題

いわゆる、昔、〇〇算と言われていたような問題。

項目は、
何を挙げてもいい。
何種類書いてもいい。

とりあえず、
項目を書いてみる。

分				
私				
自転車				

項目を入れた表を見て、
「どこがいくらになったとき」
「どこに答えが出るか？」
が、わかるか 確認する。

これが、あらわれない表は、
項目をかえて、やりなおす。

項目のまちがい！

○数値を記入していく。
変えるものを先に
それに伴って変わるものを後から
○きまりを見つけて、解答の場所の数値を記入する。

きまりが見つからなければ、
答えが出るまで、表を書き続ける。

きまりを見つけ、式化するために表をかく。

1. 長さの等しいぼうで正方形をつくり、横に並べていく。正方形とぼうのきまり。

正方形の数□(こ)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ぼうの数○(本)	4	7	10	13	16	19			

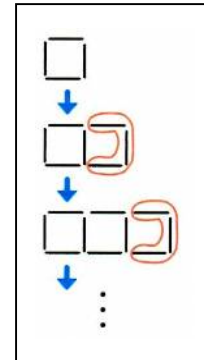
○正方形が30このとき、ぼうの数は？

①表の横のきまり・・・・・・・・○=4+3×(□-1)

$$\begin{aligned} \text{○} &= 4 + 3 \times (30 - 1) \\ &= 4 + 87 \\ &= 91 \end{aligned}$$

②表のたてのきまり・・・・・・・・○=□×3+1

$$\begin{aligned} \text{○} &= 30 \times 3 + 1 \\ &= 91 \end{aligned}$$



2. 正方形の1辺の長さと同面積

1辺の長さ□(cm)	1	2	3	4	5	6	7	8
面積○(cm ²)	1	4	9	16	25	36	49	

○1辺の長さが12cmのとき、面積は？

①表の横のきまり・・・・・・・・3・5・7・9・・・とふえていく。
 式にできない。

②表のたてのきまり・・・・・・・・○=□×□

$$\begin{aligned} \text{○} &= 12 \times 12 \\ &= 144 \end{aligned}$$

表のたてのきまりは、式化することができるが、横のきまりは、必ずしも式化できるとはかぎらない。
 だから、式化するときは、表のたてのきまりをさがせばいい。